

実効性の高い避難訓練の在り方

地震と火災の同時発生を想定し、経験値を上げる避難訓練

札幌市立宮の森小学校

1 ねらい

- ・ 予告なしに避難指示があった場合、担任やその他の教職員の指示を聞き、的確に行動できるようにする。【児童】
- ・ 基本避難経路が火災などの理由で封鎖された場合の動きを経験する。【児童】
- ・ シェイクアウトの動きを知り、実行することができる。【児童・教職員】
- ・ 地震が起こり、その後近隣から火災が発生した場合の校内検索の仕方や、119番通報等の仕方など、それぞれの役割を理解し、実行することができる。【教職員】



2 想定する災害等

- (1) 災害の種類
地震発生 → 火災発生
- (2) 発生時間
10:05～10:25
- (3) 発生場所
地震後、学校近隣住宅から火災が発生

3 避難訓練実施のポイント

- (1) **地震終了後、火災が発生したと想定することで、地震も火事も両方に対応した避難訓練を訓練の度に行うことができる。**子どもにとって避難の仕方を1度で同時に学ぶ機会となる。
- (2) 地震発生は1分間の揺れが続いたこととして、放送で児童に「揺れがまだ続いています。」と伝え、シェイクアウトや机の下にもぐらせ、校内検索後、避難開始するまでそのまま維持させる。実際の地震

の際には、校内検索をせずに避難させることはないため。



4 その他

- (1) 教職員の訓練という意識
 - ・ 子どもだけの避難訓練ではない。本当に何かが起こった時の教員の訓練でもある。そこで管理職と担任外教員で、119番をかける教員、校内を検索する教員などの役割を事前に決めておき、避難訓練の折には真剣にその仕事を行うこととした。
- (2) 校外でも生かせる知恵と技能
 - ・ 学校以外でも地震などはいつでも起こりうる。登下校中や地下鉄乗車のときにも発生するのである。そこで子どもには、災害に関わる知識や技能を身に付けさせたいと考えている。今回の避難訓練でも地震発生の際は、机の下にもぐる以外にもシェイクアウトの方法を教えている。



グラウンド横からの火災を想定したので、体育館に避難した